

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100101		
法人名	一般社団法人のどか		
事業所名	グループホームのどかの家沼津		
所在地	静岡県沼津市大塚1127-3		
自己評価作成日	令和5年12月24日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022&kani=true&JigyosyoCd=2291100101-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 6 年 1 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症が5類となり、面会規制を緩和し、居室にて30分程であるが、ご家族と面会ができています。ご利用者様も笑顔が増えている。看取り介護にあたっては、時間を制限する事なく、ご家族様に面会して頂き、悔いなく、お見送りされている。骨折後、車椅子となったご利用者様、ご本人の歩きたい意思を尊重し、トイレ誘導から下肢筋力を徐々に付け、見守り歩行ができるまでに回復されている方が数名居られる。行事や壁面など工夫し、小さいながらも四季を感じるように努めている。近隣グループホームと連携をとり、情報交換をし、ケアの向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人本部は、定期的に管理者会議を開催し、各事業所間の情報共有を図っている。運営推進会議は、2か月に1回開催し、運営に反映している。年1回満足度調査(お客様アンケート)を行い、家族の意見・要望の聴き取りに努め、事業所運営の改善に繋げている。コロナ感染制限緩和を受け、地域行事やボランティアの受け入れについて積極的に検討を進めている。法人は、年2回の三者面談や定期的な職員研修を整え、資質向上と職場環境整備に努めている。管理者は日頃から職員との対話を心掛け、職員全員が参加する月例ケア会議にて、職員との情報共有と意見交換を図っている。利用者全員のカンファレンスを行い、職員からの意見を基に、利用者の希望や残存能力を反映したモニタリングを作成し、必要な場合は介護計画の変更等に反映している。協力医による訪問診療と法人本部看護師により、利用者の健康を管理している。感染対策として、定期的な換気・消毒と清掃により、清潔で安全・安心な居住環境作りを心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人・そっと寄り添う」の理念を、職員、誰もが目にするところに掲げ、勤務職員は、申し送りの際、唱和し、一日の業務にあたっている。	法人本部は複数のGHを運営し、管理職会議を3か月に1回開催し、各事業所間の情報共有を図っている。事業所では、職員全員が参加する月例会ア会議にて、職員自らが決めた月間目標について評価を行うとともに、理念の確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に、2ヶ月に1回、のどか通信を回覧し、施設の事を紹介している。コロナ以前は、小学生の福祉体験や地域の敬老会や文化祭に参加していたが、現在は、5類となったが、まだまだ地域の活動は消極的であり、包括中心のキャラバンメイトとして職員が、参加している程度である。	事業所の広報誌「のどか通信」を回覧し、自治会との交流を継続している。コロナ感染制限緩和措置を踏まえて、敬老会の参加や小学生の福祉体験の受け入れ等、徐々に利用者や地域との交流機会を準備している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生との交流は、まだまだできていないが、包括中心の認知症座談会に職員が参加したり、認知症サポーター養成講座の打ち合わせに参加したりグループホームとして協力をしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、ご指導頂いた案件は、即施設のケア会議で話し合い、改善、質の向上に努めている。近隣グループホームの参加もあり、情報収集、共有の場となり、情報交換し、良いことは取り入れ、質の向上となっている。現在、原地区センター会議室を借り、対面会議を行っている。	運営推進会議は、行政(年1回)、地域包括支援センター職員、民生委員、近隣GH管理者、本部法人担当者等の参加のもと、2か月に1回対面にて開催している。委員からの意見等は、ケア会議で職員と情報を共有し、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料、会議録を会議終了時、届けている。都合のつくときは参加して下さっている。分からないことは、役所に行った時や電話にて気軽に質問し、関係が築かれている。地域包括支援センターとは密に活動している。また、生活保護受給者も多い為、担当職員に相談、報告を行っている。	事業所は、市職員が運営推進会議に参加の際に限らず、欠席の時にも必ず議事録を届けて、行政との連絡・意見交換を図っている。地域包括支援センター職員は毎回参加があることから、地域情報について意見交換し、常に連携できる関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設で入口に鈴をつけ、常時開放されている。施設内は身体拘束ゼロを掲示し、勉強会でも拘束・虐待について学び、月目標の振り返りと共に、スピーチロックの振り返りを行い、各職員が自己分析し改善に努めている。	身体拘束適正化委員会は2ヶ月に1回、施設で行われた後、内容を運営推進会議にて報告を行っている。「身体拘束適正化についての指針、マニュアル」を整え、年2回職員研修会を実施して、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。事業所が掲げる月次目標「ゼロ宣言」について、都度確認が行われている。	身体拘束適正化に関する勉強会の中に虐待防止のテーマが混同していることがあり、また24年度から虐待防止に関する委員会・研修が義務付けられることから、身体拘束適正化と虐待防止を分けた委員会・研修の実施を期待したい。

静岡県(グループホームのどかの家 沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて取り上げ学びの機会がある。月に一度は、スピーチロックを振り返り、ケア会議では、利用者様のケアを行うにあたって、職員が困っていることをだし、より良いケアを行うために、情報を共有し、連携をとってケアを行うように努めている。困っていることを一人で抱えない様になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度など研修に参加した資料をもとに、また、DVDをもとに勉強会で取り入れている。必要な利用者様は活用してきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、時間をかけてご説明し、ご理解を頂いている。気軽に質問して頂けるように、日頃から関係性を築いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などでは、要望、意見をお聞きし、結果も開示している。年に1回お客様アンケートをご家族様に送り、無記名にて返送して頂き、良い点、悪い点など聞き取り、屈託のない意見をお聞きし、改善励みとし、現場に反映させている。	年1回家族に向けて満足度調査(お客様アンケート)を行い、家族の意見・要望の聴き取りに努めている。集約した意見は、月例ケア会議や運営推進会議で報告し、委員や職員との情報共有と意見交換を図り、事業所運営の改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のケミーティングにて意見や疑問点を述べる機会がある。年2回の人事考課の際、意見を自由に述べられるようにしている。管理者とは、いつでも何でも話ができるようになっている。本社との繋がりを強めるために、運営サポート部があり、定期的に訪問があり、想いを傾聴し、反映されている。	年2回、本部担当職員と管理者、職員による三者面談を行い、職員との意見交換を図っている。人事考課制度・表彰制度・職員研修の仕組みを整え、職員の資質向上と職場環境整備に努めている。管理者は日頃から職員との対話を心掛け、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により、仕事における努力や提案、それによってもたされた成果など自己アピールの機会を設けている。変化する家庭環境・身体状況に応じて、就業形態の変更の申請など働きやすい環境は整っている。誕生日に花束、クオカード贈呈。10年勤続者表彰。誕生日休暇、年始リフレッシュ休暇など特別休暇が設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時研修、1年・2年目研修、リーダー研修、管理者研修など本社主催の研修を年間で計画している。必要に応じて外部研修も積極的に参加できる体制は整っている。リモートの研修参加もある。また、外部研修に出た際、施設勉強会にて紹介する機会もある。		

静岡県(グループホームのどかの家 沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に参加し、2ヶ月に1回情報提供、収集する機会がある。近隣グループホームとは、お互いに運営推進会議に参加し、相互の関係性を深め、情報交換している。介護スキルの向上や気づきとなっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の要望、意向を受け、ケアプランの原案を作成している。ご本人の想いを受け、ケア会議など職員間で話し合い、ご本人の意向を反映できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人・ご家族様の要望を受けつつ、ケアプランの原案を作成している。共に生活しながら見直し、利用者様の意向を反映できるプランづくりを心がけている。ご家族様より生活歴や趣味などお聞きし、施設での生活に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にフェースシート・入居前情報・面談記録を参考に、入居時に受ける不安や家族の心配事を解決できるようケアプランに取り入れ原案を作成している。共感と傾聴を重視したケアに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望を聞き取りながら、実現できる体制を整えている。また運営理念にもあげているように「共に歩む」を心がけ、一緒に洗濯をたんだり、器を拭いたり、リネンをセットしたり行われている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍では、玄関にて15分程度の面会でおこなってきたが、5類となって、面会の規制を緩和、現在、居室にて30分程度の面会ではできている。希望があれば、外出、外食も行われている。面会を心待ちにされている利用者様に対しては、手紙に一言添えて、面会しやすいように言葉を添えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会もそうだが、ご家族様同様に、ご友人、姪御様、甥御様などの面会も自由に行われている。地域の敬老会や文化祭はまだ、活動が行われていないが、活動が始まれば参加していく予定である。	制限緩和を受け、家族や馴染みの人(親族や友人)の訪問や外出(外食・結婚式参加)は、自由に受け入れている。地域行事への参加や交流は、まだコロナ前の状態に戻っていないが、文化祭や敬老会の再開を待って、参加できるように準備をしている。	

静岡県(グループホームのどかの家 沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	些細なトラブルは職員が間に入り、問題解決に努めている。物作りや大勢で行うレクリエーションなど提供し、利用者様同士が関り、支え合うよう支援している。生活の場なので、コミュニケーション(あいさつ)などきっかけ作りを行っている。ご利用者様は、自由に会話されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで通り、死亡退去されたご家族様には、ホームでの日々の生活の写真を添えたり、グリーンケアも含めて丁寧にお話を伺っている。病気による退去の場合は、面会や退去先の支援を行うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話のできる利用者様の要望はなるべく受け入れ、日常生活の中でご本人に決めて頂き、柔軟に対応している。発語や自分の想いを伝えられない利用者にはアイコンタクトやしぐさなどから想いをくみ取るように努力し、ご家族様や職員から情報を収集している。	入居前に利用者・家族の意向を丁寧に聞き取り、フェースシートに整理してまとめ、スムーズな入居に繋げている。管理者は入居前アセスメントをケア会議で職員に周知して、職員全員が利用者の意向に沿った支援ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より担当ケアマネやご家族からの聞き取りをさせていただきながら、趣味、嗜好の把握に努めている。時にふれ昔の暮らしなど聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化や発した言葉など個々の介護記録に残し、業務日報や気づきノートに記録し、職員の情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を毎月開催し、現状の問題点をあぶり出し、個々のケアプランの確認、モニタリングに反映させている。ご本人、ご家族様に説明し、介護計画は個々のファイルに入れ、職員が確認できるようにしている。	毎月ケア会議にて、利用者全員について、ユニットリーダーを中心にカンファレンスを行い、職員は常に個々のケアプランを確認している。職員からの意見を基に、利用者の希望や残存能力を反映したモニタリングを作成し、必要な場合は介護計画の変更等、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子発語など個人の介護記録に残し、特記事項など、業務日報や気づきノートに記録し、情報の共有に努めている。1回/月のケア会議にあげ介護計画の見直しをしている。		

静岡県(グループホームのどかの家 沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに固定せず、柔軟に変わる変化を見逃さず、ケア会議に持ち寄り、見直しをし、支援に結びつけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症が5類となったが、まだまだ活動が消極的である為、あまり協力を得られていない。良い天気の日など他者との関りを最小限にし、外出などの支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による毎月2回の往診を受け、健康管理、病気などの早期発見に努めている。連絡一つで、体調の変化のある方もすぐに対応していただき、Dr.に適切な指導を頂いている。必要に応じて、職員が同行し、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の協力医による訪問診療と、法人本部看護師(1回/週)の訪問により、利用者の健康管理に努めている。医師・看護師からの情報は、管理者・職員間で共有している。医師は24Hオンコールにより随時対応できる。通院支援は、家族と連携し、必要に応じて職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎朝同じ時間帯にバイタル測定を行い、体調に変化がある時は、施設看護師、協力医看護師、医師に報告相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は施設での情報を提供し、連携室と密に連絡を取り合い、適宜、病棟NSからTELなどで状況報告を受け、退院前カンファレンスに参加できる時は参加している。状況説明、注意事項、見通し等聞き情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会社共有のターミナルケアマニュアルを活用し、早い段階から協力医、家族と話し合いを持ち連携をとっている。職員は看取りやグリーフケアなど勉強会を通し学んでいる。ご家族様には、気持ちの変化に応じてその都度柔軟に対応していく旨をターミナル宣言書を頂く際、言葉を添えて納得頂いている。ターミナル宣言書は年に1回確認をご家族様、ご本人に行っている。	事業所での対応について入居時に利用者・家族に丁寧に説明し、同意を得ている。利用者・家族の意向は毎年確認し更新している。重度化がみられる場合は、医師と共に再度家族に確認し、意向に沿って対応している。看取りに関する研修を行い、マニュアルの確認と職員のスキルアップを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会社共有の急変・事故対策マニュアルが職員全員だれもが目にできるところに置いてあり、看護師、管理者、リーダーとだれもが対応できるよう実践力を身に付けている。		

静岡県(グループホームのどかの家 沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の防災訓練、風水害の訓練を行い、GHIに近い職員より連絡網を作成し、メール配信し、早期対応を心がけている。	風水害に関する防災訓練を1回/年、火災対策訓練等のテーマで2回/年の合計3回行っている。緊急時の職員の対応についてSNSを活用した連絡網の整備を図っている。市との連携により、災害時の食料備蓄品を7日間を目途に確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時、職員全員に個人情報に関する取り扱いの同意書を説明、サインをもらっている。介助中の声かけ、特に排泄・入浴時には個人のプライバシーを損ねない関わりを持つように職員に指導している。	個人情報に関する取扱いについて、入居時に利用者・家族の同意を得ている。職員は、不適切ケア・尊厳等の研修を定期的に受け、配慮した対応を心掛けている。管理者は、職員同士が互いに注意し合い、褒め合える環境を整え、課題が散見された場合は都度注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の流れの中、体操・レクリエーションなどある程度予定は立てているが、決定は個人に任せている。ご本人の希望など伺い要望に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな行事などや体操・物づくりは、極力共に参加して頂いているが、個人のペースを尊重して、希望、拒否があれば、要望をかなえられるような支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで着衣されていたお気に入りの衣類を持参して頂き、入浴時に、できる方は、何を着るかを一緒に考え用意をしている。起床時、洗面後、髪に各自櫛を入れて頂く。化粧などし、年に2回ご家族様に便りを出したり、2か月に1回訪問美容を活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあわせておやつ、お菓子などを考え、楽しみになるよう工夫をしている。食事のメニューは、本社管理栄養士の管理のもと、給食業者から食材が配達され、誰が作っても変わらぬ味を提供している。敬老の日、クリスマスなどは利用者様の意向を聞きながら特別メニューを選び提供している。	法人管理栄養士の栄養管理のもと、業者から提供された食材を、職員が調理して提供している。特別メニューでは、季節や行事に合わせた食事やおやつ(月見団子やかかしもち)を、利用者の希望を聞き、共に手作りするなど、食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、チェック表に記入し栄養カロリー、水分摂取量を管理している。季節に合わせた飲み物や食べ物を工夫している。一口大、超刻み食、ミキサー食と個々に合わせた形態にて提供している。		

静岡県(グループホームのどかの家 沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕と食後は必ず口腔ケアを行い、清潔を保っている。見守り、一部介助、全介助の方とご本人に合わせた対応を行っている。必要な方は洗口液を使用し、義歯使用者は、入れ歯洗浄剤を使用。毎日洗浄、消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、オムツ対応の方も立位可能であれば、トイレ誘導をし、自立支援を行っている。一人一人の排泄パターンを把握し、ちょっとした動きなど見逃さず、キャッチして、トイレに誘導し排泄の失敗を回避している。	排泄チェック表に記録し、個々の排泄パターンを把握して、見守りや声掛け、トイレまで手引き誘導など、状態に応じたトイレ誘導を支援している。夜間ポータブルトイレは、必要に応じて使用している。必要のない方は、トイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便の色、形状を知り、個々に応じた排泄コントロールを設定している。排泄チェック表を活用し、看護師指示のもと、便秘予防の対応をしている。おやつに果物を取り入れたり、毎日、牛乳を提供し工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴が目安ではあるが、希望に沿って対応している。入浴時には、ご本人の話したい事や歌いたい歌を歌い、職員とコミュニケーションをはかっている。汚染時は、シャワー浴にて清潔を保っている。	週に2回の午前入浴を基本とし、利用者個々の希望・体調に合わせて柔軟な対応を心掛けている。声掛けを工夫しながら、入浴時に職員との会話や歌を歌ってコミュニケーションを図り、湯温度の調整や入浴剤やゆずを使用し、気持ちよく入浴してもらおう工夫を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、ご本人のペースにて休んで頂いている。就寝提供の時間は利用者様の状況に合わせている。ベッドからの転落、怪我回避に床にマットなど用い対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報など一覧にし、業務日報に挟み、職員各自が目を通して印を捺し周知している。事務所内に設置してある投薬ポケットに区分し、飲み残しの無いよう心がけ、服薬時には、日付、名前など大きな声にて読み上げ、周りの職員と共有し、誤薬のトラブルを回避している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗濯干し、たたみ、片付け、お皿拭きなどできる範囲で行って頂いている。新聞を読んだり、編み物をされたり、家で過ごされていた時と変わりなくできる方もいる。気分転換に職員と散歩、外気浴をし、気分転換を図っている。		

静岡県(グループホームのどかの家 沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や友人との外食、外泊は可能な限り関わりを持って頂いている。衣類の買物、ティッシュなど職員と共に買い物に出かけられるよう支援している。ご希望により、お墓参り、結婚式などご出席されている。	制限緩和を受け、感染対策を取りながら、天気の良い日に事業所の周りを散歩したり、近隣の商業施設へ職員と買い物に出掛けたり、利用者・家族の希望に合わせて個々に対応している。法事や結婚式参列など、外食や外出・外泊も認め、家族との関わりを大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、貴重品や現金は紛失の恐れが高いのでお持ち頂くことは控えてもらっているが、紛失してもかまわない程度の所持金は、家族の同意のうえで、ご本人が安心するのであればお持ち頂くこともしている。買い物の際は、施設の立替金を持参してレジにて支払う行為を職員同行の下、一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で文章を書くことができる人は少ないが、レターセット等は準備している。電話をしたいと希望があれば、ご家族に支障ない時間などを調整してお話をしている。暑中見舞いや年賀状をご家族に出したり、ご要望に応じて、出したい時に、葉書に代筆し、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの窓、天井、階段などには、季節の四季が感じられるような飾りつけを行い、四季の訪れを職員と一緒に楽しんで頂いている。廊下には、日頃作成している作品や、習字を掲示して楽しんでもらっている。また、個々の顔写真を掲示して自分がここに住んでいることを習慣的に感じてもらうようにしている。	居間、食堂は南に面していて明るく、通りに面した窓には行き交う人にも楽しんでもらえるように、季節の作品が貼ってある。利用者は居間で過ごすことが多く、定期的な消毒と換気により(1日5回 職員が対応)、清潔な環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いグループを同じテーブルにし、食事やおやつなど摂って頂いている。他者との関りを好まない利用者様にはタイミングを見計らいながら声をかけ職員と会話している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て、使い慣れたもの、なくてはならないものなど用意してもらい、居室に置いている。家族写真など飾り、孤独感を極力持たない様、環境に配慮している。	使い慣れたダンスが置かれた居室には、家族の写真や時計が見やすい位置に飾られていて、居心地の良い居室作りを支援している。寝たきりの利用者の部屋は、扉を開けて居間の様子がわかるように配慮している。居室担当を中心に整理整頓を行い、清潔・安全な居室作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子生活をされていた方が、手引きにて歩行できるように変化し、ご本人の「まだできる。」という想いに添い、達成感を持って頂くよう支援している。下肢筋力がついた利用者様で、自由に歩きたい方には、見守りの中、自由に歩いて頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100101		
法人名	一般社団法人のどか		
事業所名	グループホームのどかの家沼津		
所在地	静岡県沼津市大塚1127-3		
自己評価作成日	令和5年12月24日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症が5類となり、面会規制を緩和し、居室にて30分程であるが、ご家族と面会ができています。ご利用者様も笑顔が増えています。看取り介護にあたっては、時間を制限する事なく、ご家族様に面会して頂き、悔いなく、お見送りされている。骨折後、車椅子となったご利用者様、ご本人の歩きたい意思を尊重し、トイレ誘導から下肢筋力を徐々につけ、見守り歩行ができるまでに回復されている方が数名居られる。行事や壁面など工夫し、小さいながらも四季を感じるように努めている。近隣グループホームと連携をとり、情報交換をし、ケアの向上に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022&kani=true&JigyosyoCd=2291100101-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 6 年 1 月 24 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人・そっと寄り添う」の理念を、職員、誰もが目にするところに掲げ、勤務職員は、申し送りの際、唱和し、一日の業務にあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に、2ヶ月に1回、のどか通信を回覧し、施設の事を紹介している。コロナ以前は、小学生の福祉体験や地域の敬老会や文化祭に参加していたが、現在は、5類となったが、まだまだ地域の活動は消極的であり、包括中心のキャラバンメイトとして職員が、参加している程度である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生との交流は、まだまだできていないが、包括中心の認知症座談会に職員が参加したり、認知症サポーター養成講座の打ち合わせに参加したりグループホームとして協力を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、ご指導頂いた案件は、即施設のケア会議で話し合い、改善、質の向上に努めている。近隣グループホームの参加もあり、情報収集、共有の場となり、情報交換し、良いことは取り入れ、質の向上となっている。現在、原地区センター会議室を借り、対面会議を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料、会議録を会議終了時、届けている。都合のつくときは参加して下さっている。分からないことは、役所に行った時や電話にて気軽に質問し、関係が築かれている。地域包括支援センターとは密に活動している。また、生活保護受給者も多い為、担当職員に相談、報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設で入口に鈴をつけ、常時開放されている。施設内は身体拘束ゼロを掲示し、勉強会でも拘束・虐待について学び、月目標の振り返りと共に、スピーチロックの振り返りを行い、各職員が自己分析し改善に努めている。		

静岡県(グループホームのどかの家 沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて取り上げ学びの機会がある。月に一度は、スピーチロックを振り返り、ケア会議では、利用者様のケアを行うにあたって、職員が困っていることをだし、より良いケアを行うために、情報を共有し、連携をとってケアを行うように努めている。困っていることを一人で抱えない様にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度など研修に参加した資料をもとに、また、DVDをもとに勉強会で取り入れている。必要な利用者様は活用してきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、時間をかけてご説明し、ご理解を頂いている。気軽に質問して頂けるように、日頃から関係性を築いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などでは、要望、意見をお聞きし、結果も開示している。年に1回お客様アンケートをご家族様に送り、無記名にて返送して頂き、良い点、悪い点など聞き取り、屈託のない意見をお聞きし、改善励みとし、現場に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のケアミーティングにて意見や疑問点を述べる機会がある。年2回の人事考課の際、意見を自由に述べられるようにしている。管理者とは、いつでも何でも話ができるようになっている。本社との繋がりを強めるために、運営サポート部があり、定期的に訪問があり、想いを傾聴し、反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により、仕事における努力や提案、それによってもたされた成果など自己アピールの機会を設けている。変化する家庭環境・身体状況に応じて、就業形態の変更の申請など働きやすい環境は整っている。誕生日に花束、クオカード贈呈。10年勤続者表彰。誕生日休暇、年始リフレッシュ休暇など特別休暇が設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時研修、1年・2年目研修、リーダー研修、管理者研修など本社主催の研修を年間で計画している。必要に応じて外部研修も積極的に参加できる体制は整っている。リモートの研修参加もある。また、外部研修に出た際、施設勉強会にて紹介する機会もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に参加し、2ヶ月に1回情報提供、収集する機会がある。近隣グループホームとは、お互いに運営推進会議に参加し、相互の関係性を深め、情報交換している。介護スキルの向上や気づきとなっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の要望、意向を受け、ケアプランの原案を作成している。ご本人の思いを受け、ケア会議など職員間で話し合い、ご本人の意向を反映できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人・ご家族様の要望を受けつつ、ケアプランの原案を作成している。共に生活しながら見直し、利用者様の意向を反映できるプランづくりを心がけている。ご家族様より生活歴や趣味などお聞きし、施設での生活に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にフェースシート・入居前情報・面談記録を参考に、入居時に受ける不安や家族の心配事を解決できるようケアプランに取り入れ原案を作成している。共感と傾聴を重視したケアに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望を聞き取りながら、実現できる体制を整えている。また運営理念にもあげているように「共に歩む」を心がけ、一緒に洗濯をたたんだり、器を拭いたり、リネンをセットしたり行われている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍では、玄関にて15分程度の面会でおこなってきたが、5類となって、面会の規制を緩め、現在、居室にて30分程度の面会はできている。希望があれば、外出、外食も行われている。面会を心待ちにされている利用者様に対しては、手紙に一言添えて、面会しやすいように言葉を添えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会もそうだが、ご家族様同様に、ご友人、姪御様、甥御様などの面会も自由に行われている。地域の敬老会や文化祭はまだ、活動が行われていないが、活動が始まれば参加していく予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	些細なトラブルは職員が間に入り、問題解決に努めている。物作りや大勢で行うレクリエーションなど提供し、利用者様同士が関り、支え合うよう支援している。生活の場なので、コミュニケーション(あいさつ)などきっかけ作りを行っている。ご利用者様は、自由に会話されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで通り、死亡退去されたご家族様には、ホームでの日々の生活の写真を添えたり、グリーフケアも含めて丁寧にお話を伺っている。病気による退去の場合は、面会や退去先の支援を行うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話のできる利用者様の要望はなるべく受け入れ、日常生活の中でご本人に決めて頂き、柔軟に対応している。発語や自分の想いを伝えられない利用者にはアイコンタクトやしぐさなどから想いをくみ取るように努力し、ご家族様や職員から情報を収集している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より担当ケアマネやご家族からの聞き取りをさせていただきながら、趣味、嗜好の把握に努めている。時にふれ昔の暮らしなど聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化や発した言葉など個々の介護記録に残し、業務日報や気づきノートに記録し、職員の情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を毎月開催し、現状の問題点をあぶり出し、個々のケアプランの確認、モニタリングに反映させている。ご本人、ご家族様に説明し、介護計画は個々のファイルに入れ、職員が確認できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子発語など個人の介護記録に残し、特記事項など、業務日報や気づきノートに記録し、情報の共有に努めている。1回/月のケア会議にあげ介護計画の見直しをしている。		

静岡県(グループホームのどかの家 沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに固定せず、柔軟に変わる変化を見逃さず、ケア会議に持ち寄り、見直しをし、支援に結びつけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症が5類となったが、まだまだ活動が消極的である為、あまり協力を得られていない。良い天気の日など他者との関りを最小限にし、外出などの支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による毎月2回の往診を受け、健康管理、病気などの早期発見に努めている。連絡一つで、体調の変化のある方もすぐに対応していただき、Dr.に適切な指導を頂いている。必要に応じて、職員が同行し、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎朝同じ時間帯にバイタル測定を行い、体調に変化がある時は、施設看護師、協力医看護師、医師に報告相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は施設での情報を提供し、連携室と密に連絡を取り合い、適宜、病棟NSからTELなどで状況報告を受け、退院前カンファレンスに参加できる時は参加している。状況説明、注意事項、見通し等聞き情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会社共有のターミナルケアマニュアルを活用し、早い段階から協力医、家族と話し合いを持ち連携をとっている。職員は看取りやグリーフケアなど勉強会を通し学んでいる。ご家族様には、気持ちの変化に応じてその都度柔軟に対応していく旨をターミナル宣言書を頂く際、言葉を添えて納得頂いている。ターミナル宣言書は年に1回確認をご家族様、ご本人に行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会社共有の急変・事故対策マニュアルが職員全員だれもが目に見えるところに置いてあり、看護師、管理者、リーダーとだれもが対応できるよう実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の防災訓練、風水害の訓練を行い、GHIに近い職員より連絡網を作成し、メール配信し、早期対応を心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時、職員全員に個人情報に関する取り扱いの同意書を説明、サインをもらっている。介助中の声かけ、特に排泄・入浴時には個人のプライバシーを損ねない関わりを持つように職員に指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の流れの中、体操・レクリエーションなどある程度予定は立てているが、決定は個人に任せている。ご本人の希望など伺い要望に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	大きな行事などや体操・物づくりは、極力共に参加して頂いているが、個人のペースを尊重して、希望、拒否があれば、要望をかなえられるような支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで着衣されていたお気に入りの衣類を持参して頂き、入浴時に、できる方は、何を着るかを一緒に考え用意をしている。起床時、洗面後、髪に各自櫛を入れて頂く。化粧などし、年に2回ご家族様に便りを出したり、2か月に1回訪問美容を活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあわせておやつ、お菓子などを考え、楽しみになるよう工夫をしている。食事のメニューは、本社管理栄養士の管理のもと、給食業者から食材が配達され、誰が作っても変わらぬ味を提供している。敬老の日、クリスマスなどは利用者様の意向を聞きながら特別メニューを選び提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、チェック表に記入し栄養カロリー、水分摂取量を管理している。季節に合わせた飲み物や食べ物を工夫している。一口大、超刻み食、ミキサー食と個々に合わせた形態にて提供している。		

静岡県(グループホームのどかの家 沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕と食後は必ず口腔ケアを行い、清潔を保っている。見守り、一部介助、全介助の方とご本人に合わせた対応を行っている。必要な方は洗口液を使用し、義歯使用者は、入れ歯洗浄剤を使用。毎日洗浄、消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、オムツ対応の方も立位可能であれば、トイレ誘導をし、自立支援を行っている。一人一人の排泄パターンを把握し、ちょっとした動きなど見逃さず、キャッチして、トイレに誘導し排泄の失敗を回避している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便の色、形状を知り、個々に応じた排泄コントロールを設定している。排泄チェック表を活用し、看護師指示のもと、便秘予防の対応をしている。おやつに果物を取り入れたり、毎日、牛乳を提供し工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴が目安ではあるが、希望に沿って対応している。入浴時には、ご本人の話したい事や歌いたい歌を歌い、職員とコミュニケーションをはかっている。汚染時は、シャワー浴にて清潔を保っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、ご本人のペースにて休んで頂いている。就業提供の時間は利用者様の状況に合わせている。ベッドからの転落、怪我回避に床にマットなど用い対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報など一覧にし、業務日報に挟み、職員各自が目を通して印を捺し周知している。事務所内に設置してある投薬ポケットに区分し、飲み残しの無いよう心がけ、服薬時には、日付、名前など大きな声にて読み上げ、周りの職員と共有し、誤薬のトラブルを回避している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗濯干し、たたみ、片付け、お皿拭きなどできる範囲で行って頂いている。新聞を読んだり、編み物をされたり、家で過ごされていた時と変わりなくできる方もいる。気分転換に職員と散歩、外気浴をし、気分転換を図っている。		

静岡県(グループホームのどかの家 沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や友人との外食、外泊は可能な限り関わりを持って頂いている。衣類の買物、ティッシュなど職員と共に買い物に出かけられるよう支援している。ご希望により、お墓参り、結婚式などご出席されている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、貴重品や現金は紛失の恐れが高いのでお持ち頂くことは控えてもらっているが、紛失してもかまわない程度の所持金は、家族の同意のうえで、ご本人が安心するのであればお持ち頂くこともしている。買い物の際は、施設の立替金を持参してレジにて支払う行為を職員同行の下、一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で文章を書くことができる人は少ないが、レターセット等は準備している。電話をしたいと希望があれば、ご家族に支障ない時間などを調整してお話をしている。暑中見舞いや年賀状をご家族に出したり、ご要望に応じて、出したい時に、葉書に代筆し、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの窓、天井、階段などには、季節の四季が感じられるような飾りつけを行い、四季の訪れを職員と一緒に楽しんで頂いている。廊下には、日頃作成している作品や、習字を掲示して楽しんでもらっている。また、個々の顔写真を掲示して自分がここに住んでいることを習慣的に感じてもらうようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いグループを同じテーブルにし、食事やおやつなど摂って頂いている。他者との関りを好まない利用者様にはタイミングを見計らいながら声をかけ職員と会話している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て、使い慣れたもの、なくてはならないものなど用意してもらい、居室に置いている。家族写真など飾り、孤独感を極力持たない様、環境に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子生活をされていた方が、手引きにて歩行できるように変化し、ご本人の「まだできる。」という想いに添い、達成感を持って頂くよう支援している。下肢筋力がついた利用者様で、自由に歩きたい方には、見守りの中、自由に歩いて頂いている。		